

## 秋田支部の設立から現在

加賀屋建一（昭和49年・土木）



### ①. 支部設立

私が秋田県庁に奉職した昭和49年、何もわからぬまま県の先輩に連れられて秋田駅前の某会館に行くこと数人の先輩達が集まっていたことを記憶しています。今考えてみるとあれが「秋田支部設立準備会」だったのだと思います。

その後、昭和57年に東北支部から独立し、わずか20数名の単独支部が設立されたと記憶しています。毎年1回は会員一同で男鹿半島などの景勝地のホテルや旅館などで一泊し、皆で夜を徹して議論したものでした。しかし近年ではそうした雰囲気は後輩会員達に嫌われ、ホテル等で「泊まり無し」の懇親会のみになってしまいました。秋田支部、岩手支部共に会員数が少ないこともあり、両県の人事交流をきっかけに合同で懇親会を開催したこともありましたが、しかし、秋田県・岩手県職員の人事交流が終了すると次第に開催されなくなってしまいました。

### ②. これまでの主な活動

平成に入った頃、秋田支部の会員数も50名近くに増え、まさに絶頂期でした。

平成14年、本部理事と全国の各支部長一同が秋田市に集まり同窓会総会が開催されました。現在の総会や懇親会のような規模・演出もなく、まったく手造りだったのですが皆様には大変喜んでいただいたと思っております。

またこの時、当支部樽田氏（土木・H3年卒）の奮闘により室工大オリジナル半纏が製作され、その後他支部でもそれぞれ独自に製作していただいております。

また、当会員小野貴之氏（土木・昭和61年卒）の貢献により室工大に「未利用資源エネルギー工学」の寄附講座ができたという事もありました。

さらに、県を跨いだ同窓会会員の協力によりナマハゲでも有名な秋田県男鹿市役所構内のカラー舗装、企業局の下水道補修、旧角館町（現在仙北市）のごみ処理場の設計・施工など多方面の活動がなされてきたところです。

### ③. 秋田支部の現在

室工大に進学・卒業する方で秋田県出身者がだんだん減ってきているように感じます。今後共、支部の会員数の漸減は避けられないと感じています。それは本県からの本校への進学者が減ってしまった事、インターンシップや集団面接の広がりや全国的な人手不足により完全に売り手市場となり就職先を探す場合でも先輩達の手を借りることなどほぼ必要でなくなったことに起因すると思われれます。

### ④. これからの展望

卒業生が本県よりも大都市圏に就職することが増え、本県支部への新規会員数が減ってしまったのも会員数減少の一因かと考えられます。

さらに卒業生が同窓会に参加する意義・メリットを感じない雰囲気が広がっているように思います。若い卒業生が、たとえ専門分野が違って先輩達の経験や技術的アイデアなどお聞きして、参加して良かった・楽しかったと思うようであれば、同窓会が今後同じように持続することは難しいと思われてなりません。先輩・後輩が上下なく技術論で語り合うことが大切だと考えます。組織や職に関する考え方も変化し、「意義や生きがい」を追求するようになりました。同窓会のあり方もこうした意識の変化にあわせ見直すことも必要だと考えます。